

## 第3章

### 調査結果の詳細

## 家族コミュニケーションの実態と意識

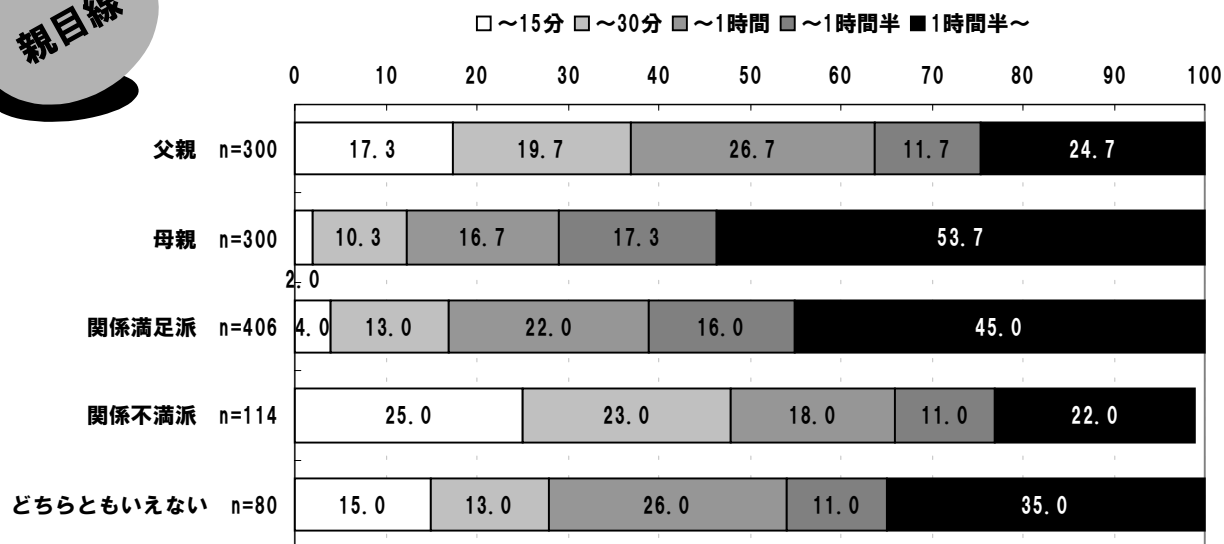
### 平日の親子会話量

■父親は6割以上が1時間以下、母親は半数以上が1時間半以上と、父親と母親で会話量に大きな差が見られる。

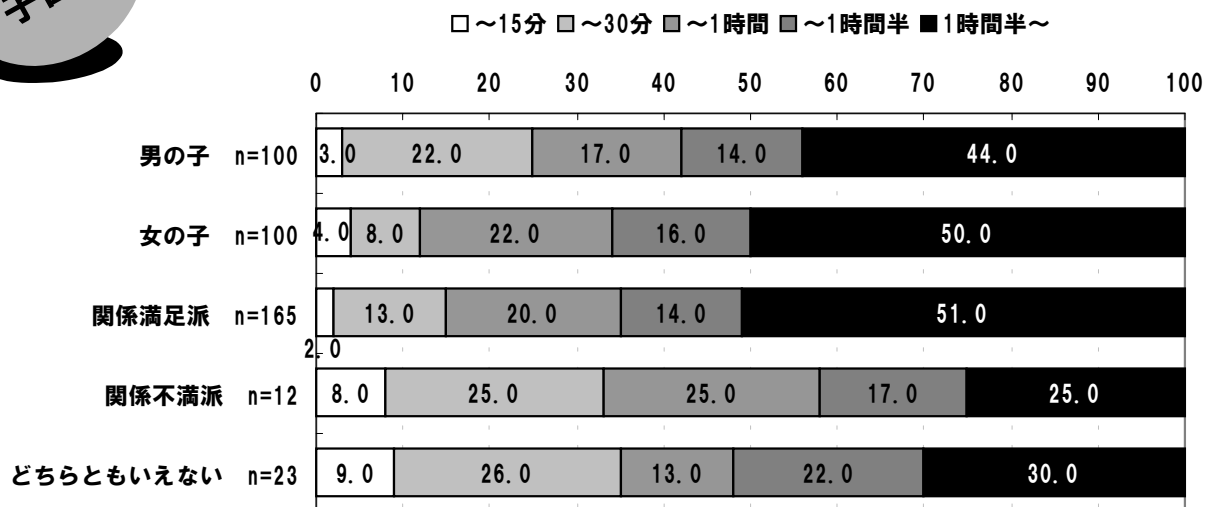
■また、親、子共に、＜関係満足派＞は不満派に比べて会話量が多く、会話量と関係の満足度は相関する関係にあることが窺われる。

#### 平日

##### 親目線



##### 子目線



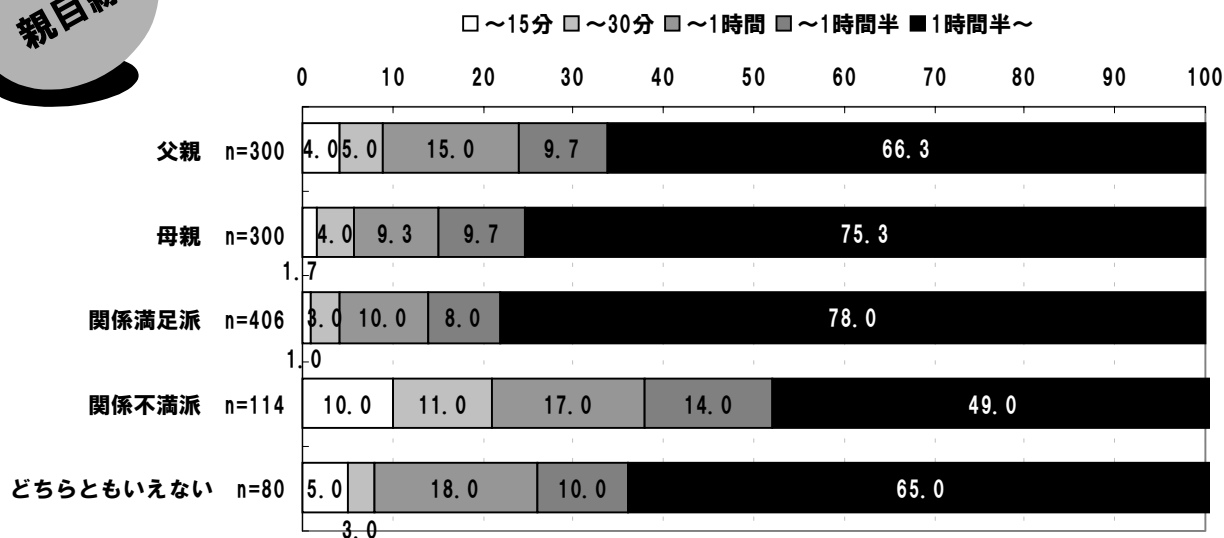
## 家族コミュニケーションの実態と意識 週末の親子会話量

■週末は平日に比べ、各層とも会話量が増加。父親も6割以上が1時間半以上と、平日に比べて大幅に増えている。

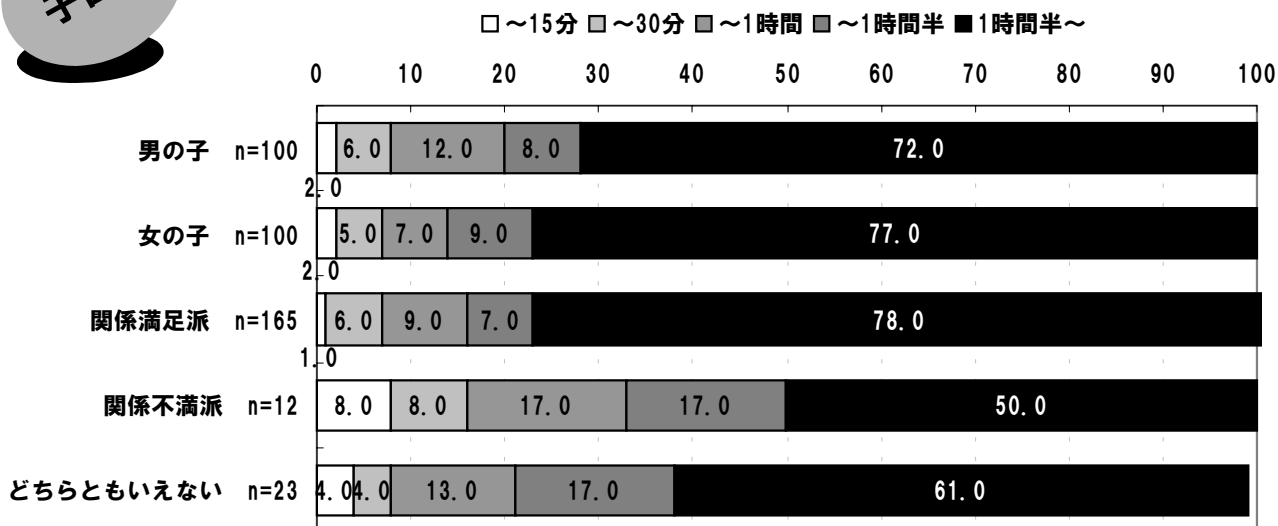
■<関係不満派>は、週末においても、最も会話量が少ない。

### 週末

#### 親目線



#### 子目線



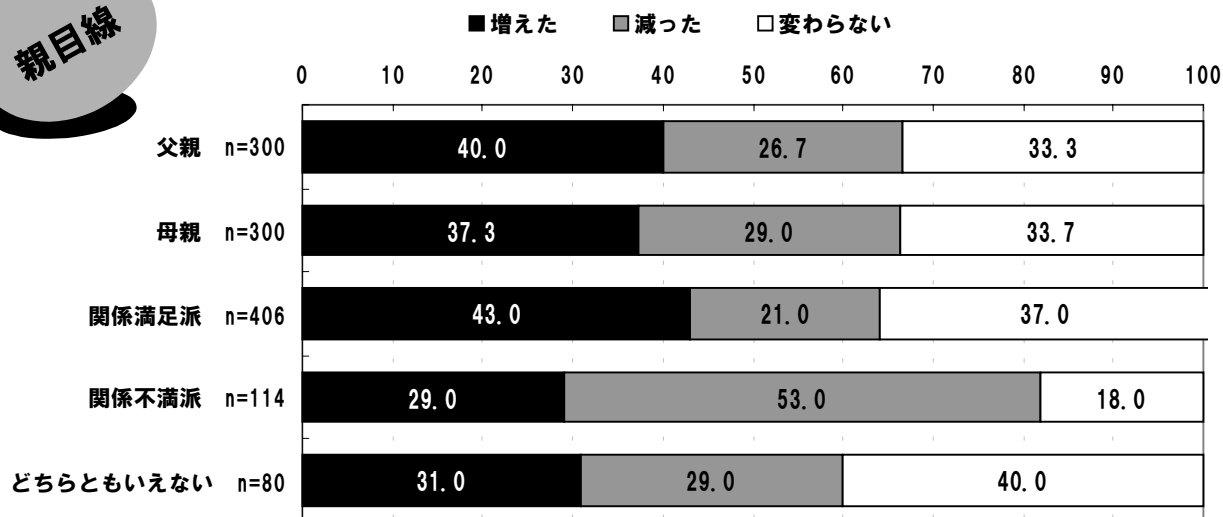
## 家族コミュニケーションの実態と意識

### 親子会話量の変化

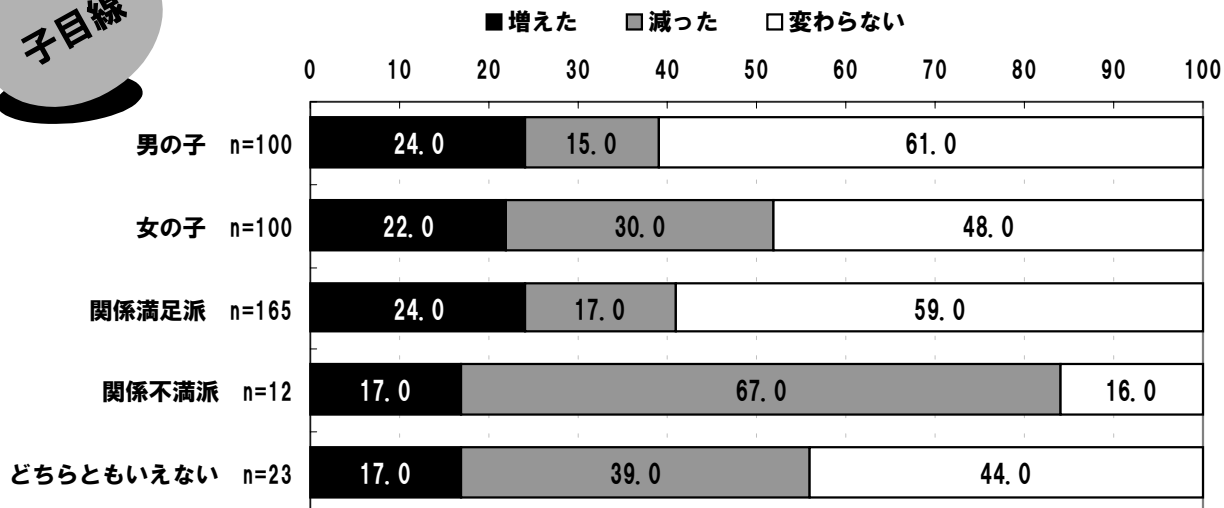
■<関係不満派>で、「減った」が半数を超え、「増えた」（29％）を上回った。  
 ■親層では「増えた」が約4割であるのに対し、子ども層では「増えた」が2割強にとどまる一方、「変わらない」が<男の子>で6割、<女の子>でも5割弱と高くなっており、親子の認識のズレが見受けられる。また、<関係不満派の子>では、7割近くが「減った」と感じている。

#### 3年前と比較した会話量

##### 親目線



##### 子目線






## 家族コミュニケーションの実態と意識 親子会話内容／話題

- 親子の会話内容については、「学校での出来事」「友達のこと」がTOP 2。但し、<父親>では「遊び」が最も高くなっている。
- <女の子>は、話題が「学校」や「友達」に集中する傾向が見られる。
- 親が高くて、子が低いのは「しつけやマナー」、反対に子が高くて親が低いのは「塾やけいこ事」について。
- 「仕事」の話題は、親、子ともに低い。

### 普段の親子の会話内容は何か

\*MA / 3つ選択

	父親	母親	男の子	女の子
1:勉強のこと	27.0%	26.3%	34.0%	28.0%
2:友だちのこと	45.0%	60.0%	44.0%	55.0%
3:学校での出来事について	49.3%	66.7%	67.0%	80.0%
4:兄弟姉妹のこと	10.7%	8.3%	16.0%	13.0%
5:遊び(ゲームなど)のこと	56.0%	33.0%	34.0%	14.0%
6:塾や稽古事について	5.3%	8.0%	15.0%	15.0%
7:ファッションについて	1.7%	5.3%	2.0%	2.0%
8:ニュースや世の中のこと	6.0%	8.7%	11.0%	10.0%
9:芸能・タレントについて	7.0%	10.0%	4.0%	9.0%
10:テレビ番組について	26.0%	22.7%	33.0%	29.0%
11:食事や食べ物のこと	19.7%	15.3%	17.0%	18.0%
12:恋愛のこと	0.0%	1.3%	1.0%	2.0%
13:しつけやマナーのこと	18.0%	14.0%	3.0%	4.0%
14:祖父母・親戚のこと	4.7%	3.7%	0.0%	2.0%
15:週末などの予定について	13.3%	7.3%	10.0%	10.0%
16:仕事のこと	2.3%	3.0%	3.0%	1.0%
17:昔話	4.3%	2.0%	1.0%	4.0%
18:その他	3.7%	4.3%	5.0%	4.0%

 …各層での第1位  
 …各層での第2位  
 …各層での第3位

## 家族コミュニケーションの実態と意識

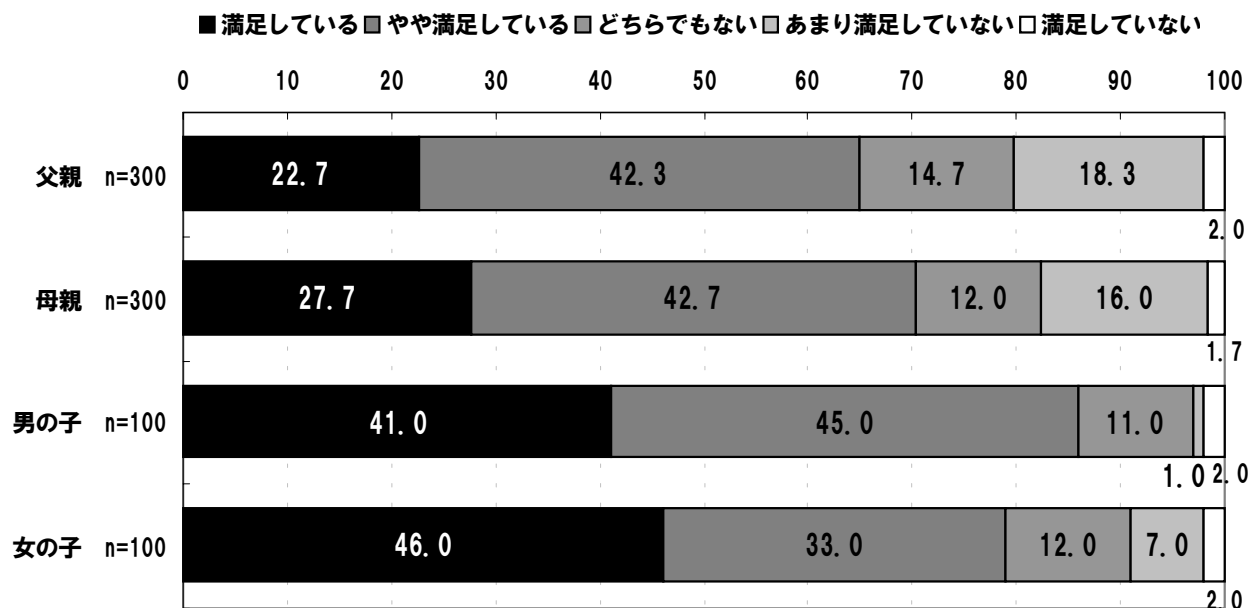
### 親子関係の満足度

■現在の親子関係の満足度は、全体にポジティブ計で6割以上。

■「満足」と「やや満足」を合わせると、＜男の子＞の満足度が最も高く、9割近い。また、＜女の子＞は、「満足」と答えた割合が最も高い。総じて、子どもの方が満足度は高い。

■満足度は、「同じ楽しみを共有できること」が鍵である。（OAより）

#### 現在の親子関係に満足しているか



親

#### 満足な理由

「在宅時や休日の外出時など一緒に行動する際には、時間のほとんどをコミュニケーションに使っている」  
(30代後半・父親)

「いろいろな話をしたり、スポーツを一緒にしたりしている」  
(30代後半・母親)

「共通の趣味で盛り上がっている」  
(30代後半・父親)

#### 不満な理由

「ゲームの話が多いが、興味もてない」  
(30代後半・母親)

「知りたい事を聞いても話をしてくれず、会話にならない」  
(30代後半・母親)

子

#### 満足な理由

「お父さんもお母さんもわかるまで答えてくれるし、わからないときはいっしょに調べてくれる」  
(小4・女子)

「趣味や興味が合うことが多いから」  
(小4・男子)

「平日はあまり話せないけど、休日はいっぱい遊べるから」  
(小4・男子)

#### 不満な理由

「もう少し一緒にいろんなことをやりたいから。料理とか、遊びとか」  
(小4・女子)

「楽しいことがないから」  
(小4・男子)

「共通の趣味があると話してて楽しいが、それがない」  
(小4・男子)

## 家族コミュニケーションの実態と意識 親子関係の活性化策

- 親子関係の活性化を促す行為・行動は、「スポーツ・レジャー」「どこか出かける」が<父親><男の子><女の子>でTOP 2。<母親>は「食事・お茶」がトップ。
- 最も活性化する行為・行動は、<父親><男の子>がトップ「スポーツ・レジャー」、次いで「外出」、<母親><女の子>が「食事・お茶」と一致した。
- 「入浴」については、親子間で支持が別れた。




### 親子関係を活性化する行為・行動

#### \*MA / 3つ選択

	父親	母親	男の子	女の子
1:ゲームをして遊ぶ	40.3%	28.3%	46.0%	37.0%
2:スポーツやアウトドアレジャーをする	55.0%	36.3%	61.0%	40.0%
3:食事やお茶を一緒にする	49.0%	57.0%	31.0%	38.0%
4:一緒に料理をする	5.0%	23.7%	10.0%	30.0%
5:一緒にお風呂に入る	52.0%	39.3%	17.0%	18.0%
6:一緒にショッピングをする	8.0%	20.0%	14.0%	23.0%
7:家庭内での年中行事や節目(誕生日など)行事	18.7%	26.0%	16.0%	23.0%
8:どこかへ出かける	53.7%	36.7%	66.0%	52.0%
9:一緒に何かを習ったり、勉強する	7.3%	13.3%	11.0%	15.0%
10:子から何かを教わる	9.3%	15.7%	26.0%	20.0%
11:その他	1.7%	3.7%	2.0%	4.0%

#### \*SA / 3つ選択

	父親	母親	男の子	女の子
1:ゲームをして遊ぶ	12.3%	6.0%	15.0%	15.0%
2:スポーツやアウトドアレジャーをする	28.0%	16.7%	28.0%	14.0%
3:食事やお茶を一緒にする	14.3%	26.3%	13.0%	19.0%
4:一緒に料理をする	0.0%	6.0%	0.0%	5.0%
5:一緒にお風呂に入る	14.0%	17.7%	7.0%	8.0%
6:一緒にショッピングをする	0.7%	3.7%	2.0%	6.0%
7:家庭内での年中行事や節目(誕生日など)行事	2.7%	3.3%	1.0%	5.0%
8:どこかへ出かける	20.0%	12.0%	21.0%	13.0%
9:一緒に何かを習ったり、勉強する	3.7%	3.3%	3.0%	5.0%
10:子から何かを教わる	3.7%	3.7%	8.0%	7.0%
11:その他	0.7%	1.3%	2.0%	3.0%

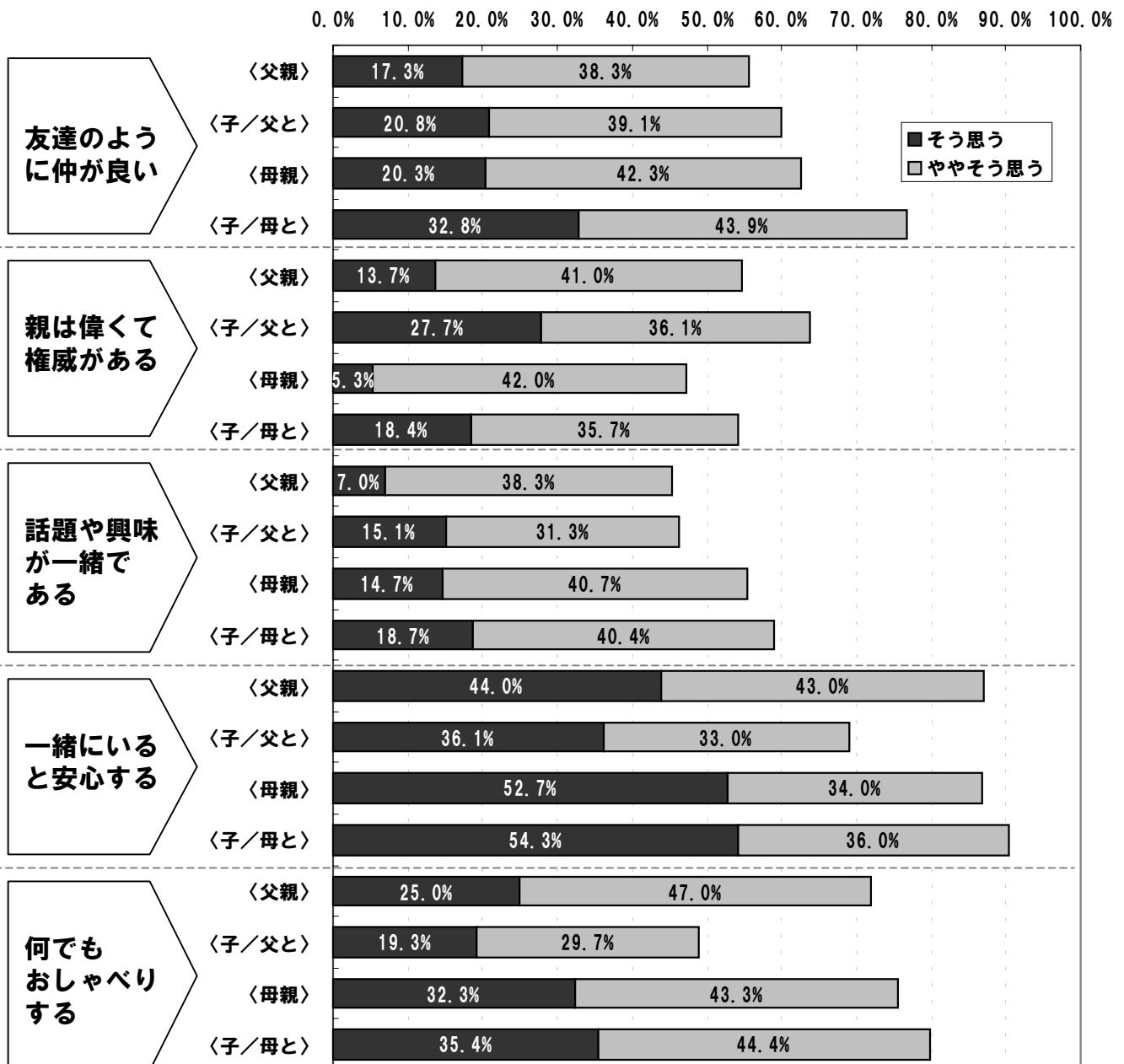
 …各層での第1位  
 …各層での第2位  
 …各層での第3位

## 家族コミュニケーションの実態と意識

### 親子関係の現状

- 親子関係の現状は、「一緒にいると安心する」がどの層でもトップ。
- 「親は偉くて権威がある」の“そう思う”については、親と子でギャップが大きい。
- 子と父親の関係では、「一緒にいると安心する」「何でもおしゃべりする」で父親と子どもの認識にギャップがある。
- 子と母親の関係では、総じて母親が認識しているよりも子の評価は高い。

#### 親子関係の現状



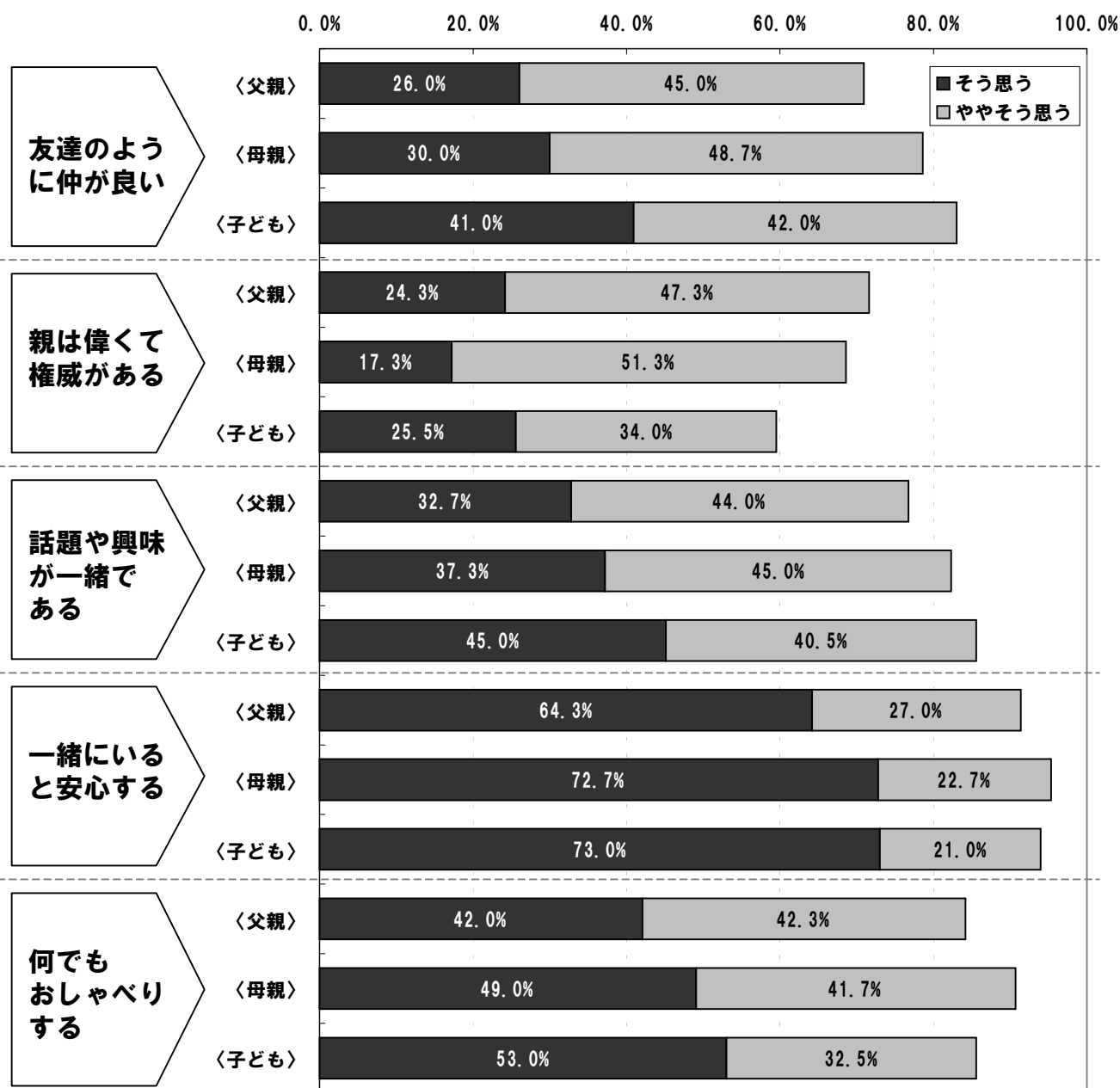
## 家族コミュニケーションの実態と意識 親子関係の理想

■理想の親子関係については、現状と同様「一緒にいると安心する」が親子ともにトップ。次に「何でもおしゃべりする」。

■「友達のように仲が良い」「話題や趣味が一緒である」といった、仲間感覚は子どもの方が強く希望している。

■「親は偉くて権威がある」については、ポジティブ計では父親→母親→子どもの順だが、“そう思う”だけで見ると、子どもが最も高くなっている。

### 親子関係の理想



## 家族コミュニケーションの実態と意識 親子関係 理想と現状のギャップ

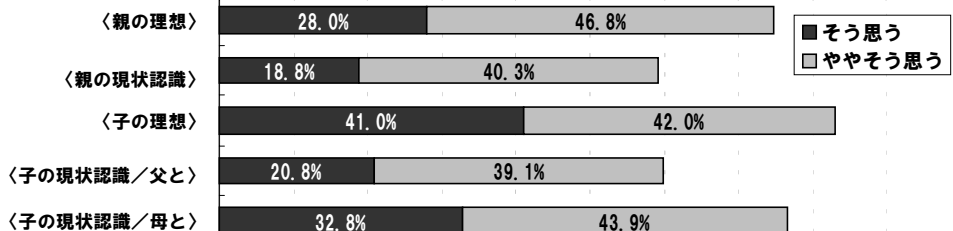
■親の理想と現状のギャップが最も少ないのは「一緒にいると安心する」。逆に最もギャップが大きいのは「話題や興味が一緒である」。

■子どもの場合は、父・母ともに最もギャップが大きいのが「話題や興味が一緒である」。総じて、母との現状の関係は理想とのギャップが少ないが、父とは「親は偉くて権威がある」を除いて、かなり理想と現実のギャップが激しい。

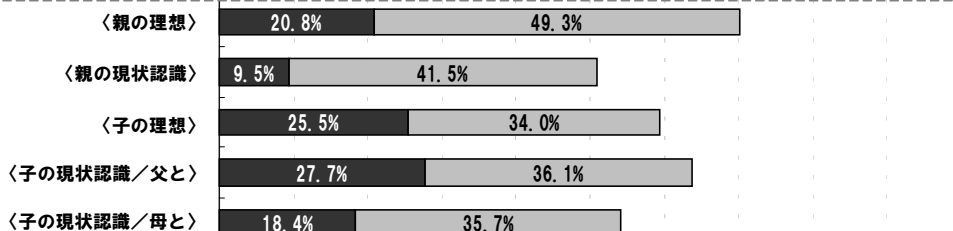
### 理想と現状のギャップ

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%

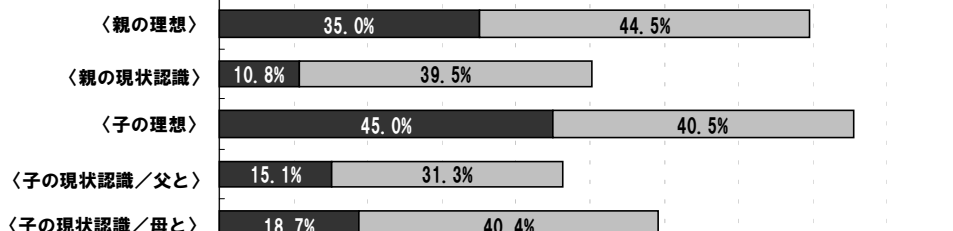
友達のよう  
に仲が良い



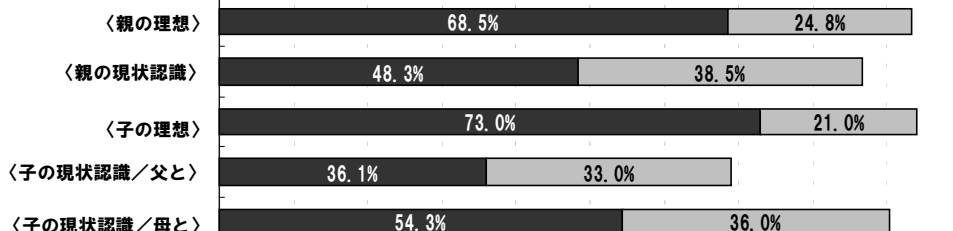
親は偉くて  
権威がある



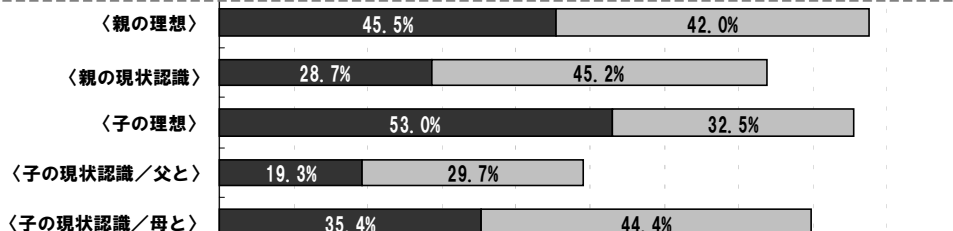
話題や興味  
が一緒で  
ある



一緒にいる  
と安心する



何でも  
おしゃべり  
する



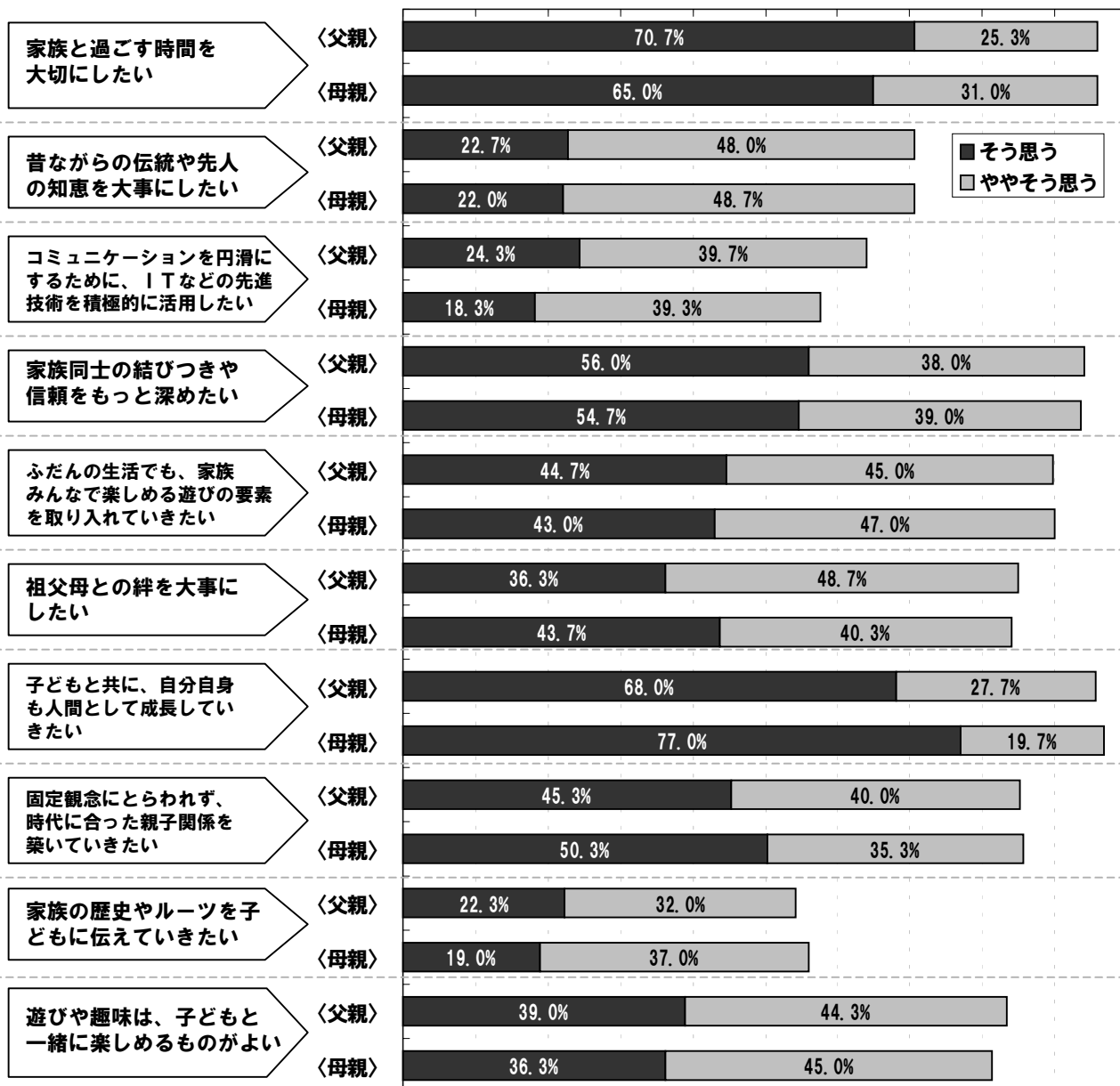
## 家族に対する考え方の受容性 共感する親子のあり方（親）

■親子のあり方に関して共感するポイントは、「家族と過ごす時間を大切にしたい」「子どもと共の成長」が共に95%を超え、TOP2となった。

■父親と母親でほとんど差異はないが、「ITの活用」で父親が、「子どもと共の成長」「祖父母との絆」の“そう思う”で母親が、それぞれやや高くなっている。

### 共感する親子のあり方

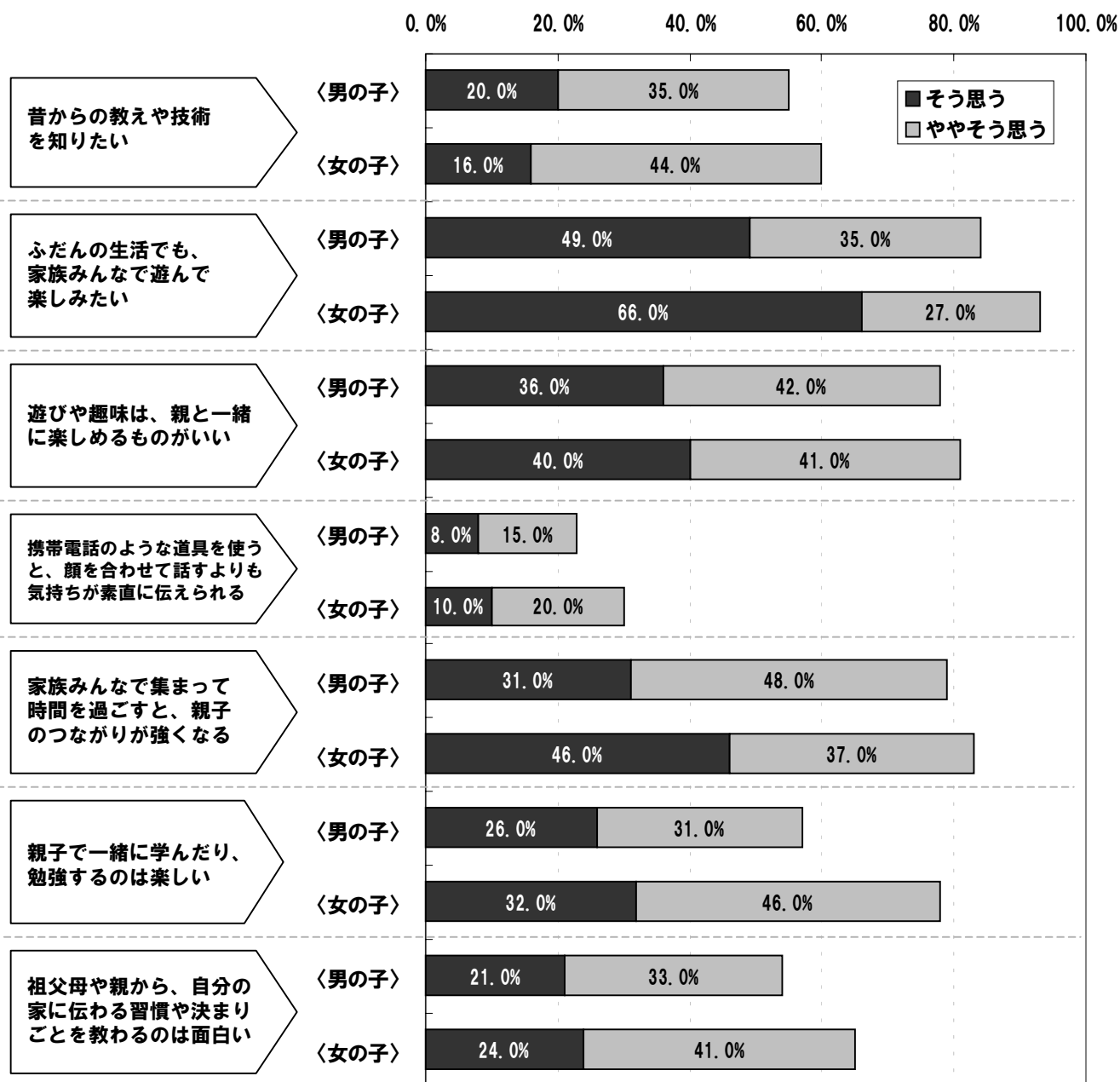
0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%



## 家族に対する考え方の受容性 共感する親子のあり方（子ども）

- 子どもから見た親子のあり方では、「ふだんの生活でも家族みんなで遊んで楽しみたい」が最も共感が高く、次に「家族みんなで集まって過ごすとながりが強くなる」が高い。
- 「親子で一緒に学ぶ」については、ポジティブ計で男女差が大きい。

### 共感する親子のあり方



## 家族に対する考え方の受容性 共感される要素

■各グループごとに共感される要素（文節評価）を聞いたところ、「楽しんで暮らす」が6割を越えて最高スコアを獲得、「家族が集まるときに生まれる我が家らしさを大事にしたい」が5割超で続く。‘楽しさ’と‘我が家らしさ’が現代家族のベースにある価値観だといえる。

■「家族と一緒に過ごす」「一緒に体験しながら学ぶ」「親から子へ引き継ぐ」といった要素は、父親の方が支持が高く、「我が家らしさ」「ともに成長していく」といった要素は母親の支持が高い。

\*SA 共感支持率（父親／母親）

A

親と子はお互いに最も身近な仲間。\*22.0% (21.0%/24.7%)

生活の中に、遊びの要素を積極的に取り入れ、\*4.5% (5.3%/3.7%)

年齢や役割を忘れて、一緒に遊びに夢中になる。\*7.7% (8.3%/7.0%)

**常にみんなが楽しんで暮らしているような家族でありたい。**

\*65.0% (65.3%/64.7%)

B

親子の会話やコミュニケーションをもっと緊密にして

\*45.5% (46.3%/44.7%)

常に親子のつながりを意識していきたいから、\*23.7% (23.7%/23.7%)

新しい道具や機器などをどんどん活用。\*6.7% (7.0%/6.3%)

顔を直接向き合わせるよりもっと素直に、

気持ちを表現したり、伝え合いたい。\*24.2% (23.0%/25.3%)

C

ハレの日や日常の節目には、家族みんなが揃って一緒に時間を過ごすことで、

\*28.5% (32.7%/24.3%)

あらためて家族の一体感を実感。\*17.7% (17.7%/17.7%)

**家族が集まると自然に生まれてくる、よその家族とは違う“我が家らしさ”を、大事にしたい。**

\*53.8% (49.7%/58.0%)

D

親が子に一方的に教えるのではなく、一緒に何かを体験しながら、暮らしに必要な技術を身につけたり、生き方について学ぶ。\*30.2% (34.0%/26.3%)

お互いに助け合いながら、親子の信頼関係を深め、\*22.7% (22.3%/22.0%)

ともに人間として成長していきたい。\*47.2% (42.7%/51.7%)

E

家庭料理や年中行事などを通じて、“昔ながらの家族”を、イベント感覚で楽しむ。

\*30.7% (29.0%/32.3%)

生活の中で受け継がれていたものの良さをあらためて見直し、\*24.8% (23.3%/26.3%)

親から子へ、何かを引き継いでいくことの面白さを味わいたい。

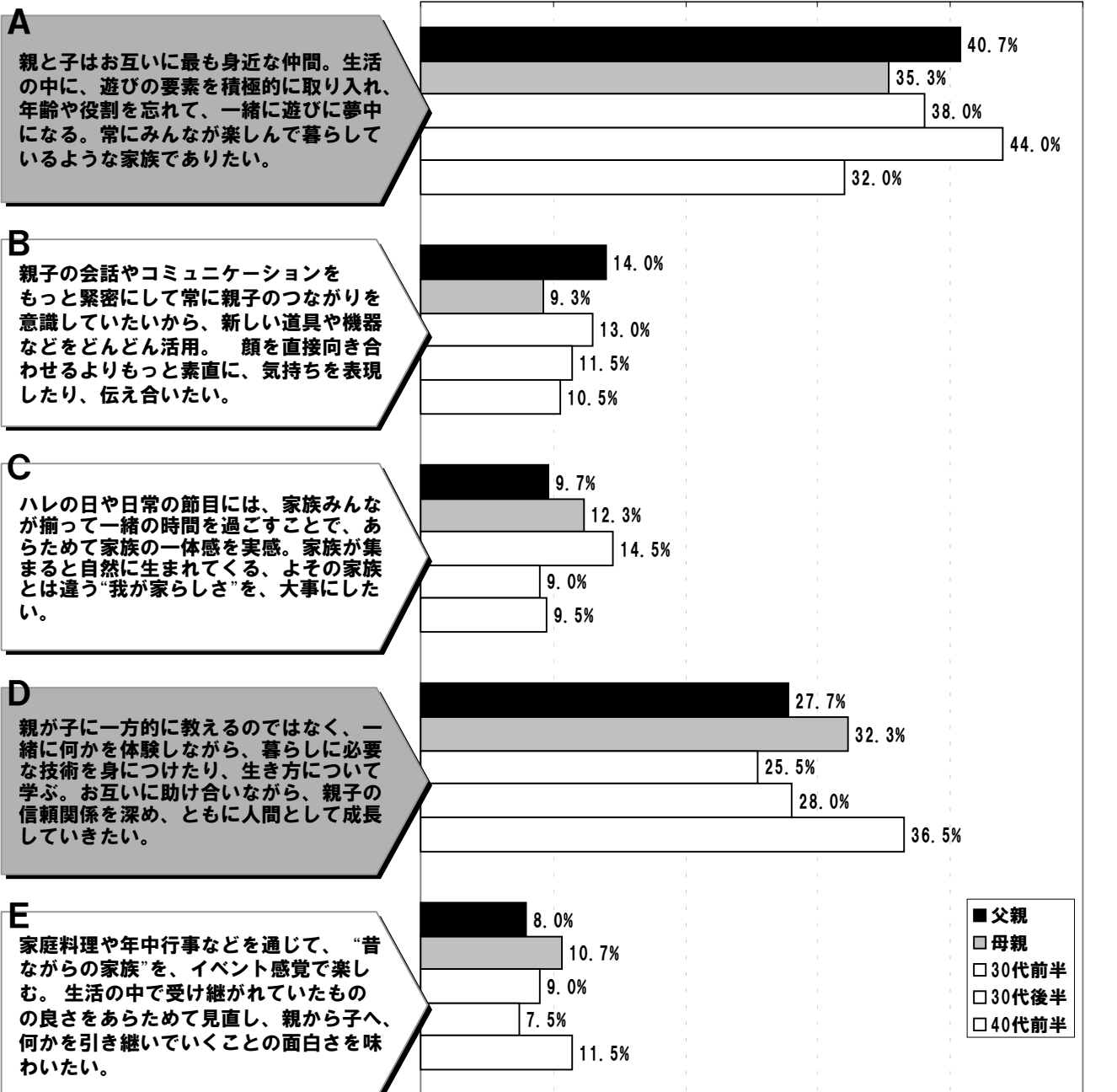
\*44.5% (47.7%/41.3%)

## 家族に対する考え方の受容性 最も共感できる考え方

■グループの相対評価により、最も共感されたものは「A」となり、「家族を身近な仲間として、楽しんで暮らしたい」というニーズが高いことが検証された。

■続いて支持されたのは「D」で、「体験や学ぶことを通じて、親子一緒に成長していきたい」という前向きな志向の強さも窺われる。

\*SA 各層（父・母）計=100%





バンダイ キャラクター研究所 時代レポート Vol. 4  
**サザエさん主義の時代**  
「家族コミュニケーションに関する調査」結果報告書

発行日 2002年6月10日  
編集・発行 株式会社バンダイ キャラクター研究所  
〒111-0043  
東京都台東区駒形2-4-11 ヨシクニ駒形ビル2F  
TEL:03-3847-8201  
FAX:03-3847-8203  
URL:<http://www.chara-labo.com>

\*無断転載を禁じます

このレポートに関するお問い合わせ

株式会社バンダイ キャラクター研究所  
土居 由希子

TEL:03-3847-8201  
E-mail:[doi@bandai.co.jp](mailto:doi@bandai.co.jp)